

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H04508

研究課題名(和文) モンゴルをとりまくエスノスケープとアイデンティティの重層的動態に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical Study on the Multi-Layered Dynamics of Ethnoscape and Identity Concerning Mongols

研究代表者

滝澤 克彦 (TAKIZAWA, Katsuhiko)

長崎大学・多文化社会学部・教授

研究者番号：80516691

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、グローバル化が進む現代世界において、外来宗教への改宗者や国際結婚者、国内/国際移動者、異民族の統治下でマイノリティとして暮らすモンゴル系の人びと、新しい外来文化に携わる人びとなど、「純粋」な「モンゴル」イメージからは周縁的・境界的な状況にある人々などが、どのようにして「モンゴル人」としての自己と向き合うようになり、その葛藤のなかからいかに新たな「モンゴル」のイメージを紡ぎ出しつつあるか調査し、そのようなイメージが、グローバルに流通しながら、いかにして様々な場面で人々の認識や行動を規定し、人と人をつなげ、あるいは対立を生み出していくのかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、モンゴル系の人びとの民族的アイデンティティに関わる問題を、周縁的・境界的な状況にある人々の生み出す「モンゴル」イメージを通して分析したもので、モンゴル研究においてはこれまでなかった斬新な試みである。また、本研究におけるキー概念である「エスノスケープ」は、アパデュライにより提唱されて久しいが、日本の学界ではその有効性や問題点が十分に吟味されてきたとは言えない。モンゴルの事例を通して、「エスノスケープ」概念に批判的な検討を加えたことも、本研究の学術的な意味において極めて重要な点である。

研究成果の概要(英文)：This joint study investigated the situation of Mongols, who in the face of advancing globalization in today's world, were borderline or marginalized with regards to the "pure" image of "Mongol". It concentrated on people such as converts to foreign religions, people in international marriages, domestic/international migrants, Mongolian people living as minorities under foreign rule, people involved in new foreign cultures. We explored how these individuals saw themselves as "Mongols" by creating a new image of "Mongol" in the midst of their inner conflicts and societal experiences. The research also examined how such images, while circulating globally, determined people's perceptions and actions in various situations, connecting people with each other, while in other instances creating conflicts.

研究分野：宗教社会学

キーワード：モンゴル グローバル化 エスノスケープ 民族的アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

「モンゴル」という言葉がともなう最もポピュラーなイメージは、チンギス・ハーンが築いた大帝国と、草原で移動生活を送る遊牧民の姿であろう。しかし、そのイメージとは裏腹に、近代以降のモンゴル系諸民族は国境により分断され、その多くが社会主義体制下で定住化や都市化といった劇的な社会的変化を経験してきた。さらに、冷戦終結後の急速なグローバル化はその変化を加速させ、いまや遊牧生活を送る人々もマイノリティとなっている。一方で、ある研究では、モンゴル国の人々が他のアジア諸国に比べて特に「民族的誇り」が高く、「生活様式の保持」に対して強い執着を覚えていることが指摘されているが、それは「伝統」からますます乖離する現実の裏返しとも言えるだろう。実際に「モンゴル帝国」や「遊牧」といったより「純粋」な民族イメージはますます人々を引きつけているが、このような民族意識については、これまでナショナリズムとの関連で論じられる場合がほとんどであった。

しかし、グローバル化の進展にともない改宗や国際／国内移動、国際結婚などによって境界的状况に置かれた人々は、これまで経験したことがないほどに「モンゴルとは何か」という課題を突きつけられ、これまでなかったような形で多様な「モンゴル」イメージを生み出しつつある。このようなイメージが、母国だけではなく世界各地のモンゴル系社会に対して与える影響を理解するためには、国民国家の枠組みに必ずしも回収されない民族的アイデンティティの複雑な動態を分析する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、グローバル化が進む現代世界においてモンゴル系の人びとをとりまくエスノスケープと民族的アイデンティティの動態を学際的な社会科学的観点から明らかにすることを目的とする。

「エスノスケープ」とは文化人類学者の A・アパデュライによって提唱された概念であるが、この概念を援用することによって、民族性の周縁や境界から生み出される「モンゴル」のイメージが、グローバルに流通しながら、いかにして様々な現場で人々の認識や行動を規定し、人々をつなげ、あるいは対立を生み出していくのかを分析する。それによって、国民国家の枠組みに必ずしも回収されない、現代世界における民族的アイデンティティの重層的動態（矛盾や分裂、捻れを内包しながら関連し合う様態）を浮かび上がらせることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では、改宗や国際移動などによって「境界的状况」にある人々がどのように新たな「モンゴル」イメージを生み出しているのかを、インタビューや参与観察調査を含めたフィールドワークに加え、音楽など幅広い資料の収集によって明らかにする。次に、収集した資料にもとづき、人びとが境界的状况において生み出す「モンゴル」イメージがどのような社会的影響を与えているかを特に以下の点に注目しながら分析する。

- (1) 民族的象徴の再動員：新たなイメージの創造は、しばしば「モンゴル帝国」や「遊牧民」などの「純粋」な民族的象徴を再動員する形で行われる（例えば、キリスト教徒がチンギス・ハーンをキリスト教に結びつけるように）。そのような再動員の様態と、それによって生じる民族的象徴をめぐる多様な立場の競合について分析する。
- (2) 新旧の文化的表象の動員：新たな「モンゴル」イメージの創造には、民族音楽や民族衣装といった「伝統的」なものだけではなく、ヒップホップなどの新たな文化も動員される。そのような文化的表象が、「民族性」の創造においてどのような役割を果たしているかを分析する。
- (3) 宗教的共同性との結合：新旧の宗教は、モンゴル系諸民族を横断して連帯を生み出す一つの動因となっている。そこで、新たな「モンゴル」イメージが宗教的共同性とどのように結びつけられているかを分析する。

以上の分析を通して、最終的に、新たな「モンゴル」イメージが、グローバルに流通しながら人々の認識や行動、共同性の動態に与えている影響を明らかにする。

4. 研究成果

本研究は、グローバル化が進む現代世界において、外来宗教への改宗者や国際結婚者、国内／国際移動者、異民族の統治下でマイノリティとして暮らすモンゴル系の人びと、新しい外来文化に携わる人びとなど、「純粋」な「モンゴル」イメージからは周縁的・境界的な状況にある人々などが、どのようにして「モンゴル人」としての自己と向き合うようになり、その葛藤のなかからいかに新たな「モンゴル」のイメージを紡ぎ出しつつあるか調査し、そのようなイメージが、

グローバルに流通しながら、いかにして様々な場面で人々の認識や行動を規定し、人と人をつなげ、あるいは対立を生み出していくのかを明らかにしてきた。研究代表者および研究分担者の具体的な研究成果については、以下の通りである。

滝澤克彦は、米国やスウェーデンなど母国以外のモンゴル系社会における「モンゴル」イメージをめぐる信仰と民族意識の関係について考察した。サンフランシスコやシカゴなどの都市には、週末にモンゴル系の子供に対してモンゴルの言葉や文化を教える「モンゴル学校」があり、言語や習慣において移住先社会との同質化が進む移民 2 世の民族意識を醸成・維持するものとして重視されている。一方で、宗教的なネットワークもモンゴル系移民の民族意識にとってのもう一つの重要な要素となっている。キリスト教はモンゴル国などではマイノリティの宗教であるが、モンゴル系移民の民族教会は彼らの人間関係形成の重要な場となっている。一方で、仏教については、ラマの法要やさまざまな活動が、モンゴル国や内モンゴル、カルムイクなど出身地域を越えたモンゴル系の人びとを結びつけていく契機となっている。このような重層的な宗教的ネットワークが、「モンゴル学校」など民族系組織とどのような関係性をもつかが、移民社会の人間関係に大きな影響を与えており、場合によっては「モンゴル」イメージをめぐる宗教間の競合が起きていることが明らかになった。

島村一平は、モンゴルにおけるヒップホップ流行に関する資料の分析とインタビュー調査を通じて、国境を越えた交流を通して生み出される「モンゴル」イメージの動態と地域間の相互作用について考察した。特に、その成果をまとめた『ヒップホップ・モンゴリア 韻がつむぐ人類学』（青土社、2021 年）では、モンゴルにおけるヒップホップ流行の歴史と現状を詳細に描写し、それを人類学的に考察している。エスノスケープについては、民主化以降に外国のものとして受け入れられたヒップホップを、遊牧という生業を背景とするモンゴルの文化と結びつけて自家籠中のものであるとする「モンゴル化」の現象や、それが国境によって分断されたモンゴル系の人びとのあいだに共有されることによって生れる「国境を越えた公共圏」の様態について明らかにしている。

賽漢卓娜は、中国モンゴル族の国内移動によって中国都市部に暮らすモンゴル族第 2 世代の民族的アイデンティティについて調査すると同時に、内モンゴル自治区遊牧地域ではモンゴル小学校、中学校、高校の在校生・教員への聞き取りを通して家族生活の変遷を調査した。内モンゴルから中国都市部への国内移住者については、「モンゴル」というイメージがどのように自覚され再認識されているかを、宗教行事や祭典等への参与観察調査、移民 2 世や国際結婚者に対するインタビュー調査などをもとに考察した。それによって、彼らが周縁的・境界的な状況にありながらも、民族性の自覚過程を通して、極めて「民族的」な役割を積極的に担おうとしている事実が明らかになった。

荒井幸康は、中国（内モンゴルと新疆）、キルギスタン（イシックリ湖周辺のサルト=カルムイク人）、モンゴル国（ホブトのオイラート人地域）、ロシア連邦（カルムイク共和国）においてモンゴル系民族がどのように自らの民族性とその歴史を表現してきたかを、博物館展示や歴史資料、インタビュー調査にもとづき分析し、その背後にある「民族」をめぐるポリティクスを明らかにした。

研究の遂行に関しては、2019 年度末から新型コロナ・ウイルスが流行し、調査の中断や変更など大きな計画修正を余儀なくされた。特に 2019 年度末に実施予定であった米国における集約的な調査が実施できず、2022 年度まで持ち越された。文献資料やインターネット上の資料の分析など代替的手段も活用したが、研究の性格上、十分に補えない部分もあった。また、期間の後半には中国やロシアへの現地調査に制限がかかる状況も生じた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Shimamura Ippei	4. 巻 73
2. 論文標題 Magicalized Socialism: An Anthropological Study on the Magical Practices of a Secularized Reincarnated Lama in Socialist Mongolia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asiatische Studien - Etudes Asiatiques	6. 最初と最後の頁 799-829
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/asia-2019-0038	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 滝澤克彦	4. 巻 5
2. 論文標題 「リスク社会」における宗教 超越的なものの所在をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 321-331
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 滝澤克彦	4. 巻 42(2)
2. 論文標題 化身ラマのグローバルな活動が紡ぎ出していくもの アジャ・リンボチェの事例から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 島村一平	4. 巻 44
2. 論文標題 呪術化する社会主義 社会主義モンゴルにおける仏教の呪術的实践と遺俗ラマ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 29-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 82(2)
2. 論文標題 (書評)久場政博著『シャーマニズムと現代文化の病理：精神科臨床の現場から』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 293-297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.83.2_293	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 -
2. 論文標題 ヒップホップ・モンゴリア,あるいは世界の周縁で貧富の格差を叫ぶということ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Synodos Academic Journalism (電子ジャーナル)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 42(2)
2. 論文標題 化身ラマたちの故郷を訪ねて モンゴル国中西部の旅から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 42(2)
2. 論文標題 化身ラマを人類学する!	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 42(2)
2. 論文標題 困ったときのラマ頼み 呪術実践としての現代モンゴル仏教	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 43-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 (翻訳)リチャード・ノル著「不可視の現実をつくるということ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 86-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村一平、八木風輝	4. 巻 45
2. 論文標題 (共訳)ジャガムビーン・ハグワデムチグ、スティッチ・バーンハード著「自己と他者との交渉：トランスナショナルな文化のフローとモンゴル仏教の再創造」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 滋賀県立大学人間文化学部研究報告『人間文化』	6. 最初と最後の頁 24-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝澤克彦	4. 巻 25
2. 論文標題 「宗教の越境」における脱領域化と民族的文脈 モンゴルの事例を通して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日中社会学研究	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻井義秀、滝澤克彦、高橋沙奈美、藤野陽平、川田進	4. 巻 91
2. 論文標題 政教関係の国際比較と新しい公共宗教論をめざして	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 159-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20716/rsjars.91.Suppl_159	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ippei Shimamura	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 A Pandemic of Shamans: The overturning of social relationships, the fracturing of community, and the diverging of morality in contemporary Mongolian shamanism	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 SHAMAN	6. 最初と最後の頁 93-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 島村一平	4. 巻 43
2. 論文標題 『シャマニズム』から『シャーマニズム』へ：北方ユーラシアの狩猟・牧畜文化における信仰の過去と現代を接合する試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 滋賀県立大学人間文化学部紀要『人間文化』	6. 最初と最後の頁 2-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島村一平	4. 巻 959
2. 論文標題 社会主義が/で生み出した英雄・チンギス・ハーン モンゴル人民共和国におけるチンギス表象とナショナリズム形成にかかる一試論(1941~1966)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 36-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 賈漢卓娜	4. 巻 367
2. 論文標題 歴史の町・長崎から見た多文化「共創」 長崎の唐通事・老華僑・新華僑を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際人流	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 賈漢卓娜	4. 巻 -
2. 論文標題 モンゴル族の移住	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 華僑華人の事典	6. 最初と最後の頁 482-483
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 15件)

1. 発表者名 Katsuhiko Takizawa
2. 発表標題 Rising Religious Nationalism in Mongolia: From 1990 to Today
3. 学会等名 International Conference on Global Risk, Secularity and Ethnicity, International Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Katsuhiko Takizawa, Baikal Toba
2. 発表標題 Digitization and analysis of the Joel Eriksson Collection
3. 学会等名 International Workshop on "Analyzing the Historic Photographs of Mongolia"
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 賽漢卓娜
2. 発表標題 大都市の官製エスニック・コミュニティの形成と第2世代のエスニシティ 北京におけるモンゴル民族の事例から
3. 学会等名 社会境界研研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 滝澤克彦
2. 発表標題 公共宗教論再考 ある化身ラマのグローバルな活動を通じて
3. 学会等名 第60回印度学宗教学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Katsuhiko TAKIZAWA
2. 発表標題 Religious Networks in Post-Socialist Mongolia: The Cases of Christianity and Buddhism
3. 学会等名 NUS-USPC Collaborative Project “ Intersecting Mobilities: Southeast Asia from the Perspective of Religious Mobility ” Workshop on Religious Networks in Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Katsuhiko TAKIZAWA
2. 発表標題 "Public Religion" across Borders: Taking an example of Global Social Activities by a Mongolian Incarnated Lama
3. 学会等名 The Inaugural Conference of the East Asian Society for the Scientific Study of Religion (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Katsuhiko TAKIZAWA
2. 発表標題 : vv
3. 学会等名 Program of Asian Seminar of the International Association for Mongolian Studies in 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島村一平
2. 発表標題 シャーマニズムからヒップホップへ モンゴル口承文芸の原風景と新風景
3. 学会等名 公開研究会「モンゴル・ヒップホップをめぐるエスノスケープの現在」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島村一平
2. 発表標題 国境を超えるヒップホップとモンゴルらしさ
3. 学会等名 公開研究会「モンゴル・ヒップホップをめぐるエスノスケープの現在」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ippei SHIMAMURA
2. 発表標題 The Invocation Songs of Mongolian Shamanism and HipHop
3. 学会等名 International Workshop on "Shamanism from the viewpoints of America, Mongol and Okinawa (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ippei SHIMAMURA
2. 発表標題 v v v v -
3. 学会等名 - v v , v (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SAIHANJUNA
2. 発表標題 Changes in Attitudes of Female Married Chinese Migrant toward Work
3. 学会等名 2018 KFSJ-JSCFH Joint Conference , Intimate Relationships: Korea-Japan Comparative Perspectives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 賁漢卓娜
2. 発表標題 国際移民女性のジェンダー役割の変容 在日既婚中国系女性の就労研究
3. 学会等名 家族と性別の多様性研究第2回シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 SAIHANJUNA
2. 発表標題 Employment Choices and Reshaping of Gender Roles for Female Immigrants in Japan - A Case Study of Married Chinese Females
3. 学会等名 2018 International Symposium on Transnational Migration and Qiaoxiang Studies International Migration Research from a Gendered Vantage Point (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒井幸康
2. 発表標題 日本とモンゴル ノモンハン、解放戦争、戦後
3. 学会等名 第26回日本植民地研究会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukiyasu ARAI
2. 発表標題 A Book of Kalmyk Exile In Europe and Its Translation Into Japanese: Story of a book, Interpreted in different way by different 'ism'
3. 学会等名 61st Permanent International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukiyasu ARAI
2. 発表標題 1920- v
3. 学会等名 Clear Script 370 VI (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukiyasu ARAI
2. 発表標題
3. 学会等名 Program of Asian Seminar of the International Association for Mongolian Studies in 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒井幸康
2. 発表標題 マンジン・ニムゲル 夭折したカルムイクの文学者について
3. 学会等名 日本モンゴル文学会2018年秋期研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 滝澤克彦
2. 発表標題 宗教の越境における民族的文脈 「モンゴル」をめぐるポリティクスと共同性
3. 学会等名 日中社会学会第29回大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 滝澤克彦
2. 発表標題 信仰と民族の相克 在外モンゴル人におけるアイデンティティの文脈
3. 学会等名 「モンゴルをとりまくエスノスケープとアイデンティティの重層的動態に関する実証的研究」第1回公開研究会「ノマド化するモンゴル世界 モンゴルをとりまくエスノスケープとアイデンティティの重層的動態 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島村一平
2. 発表標題 オーラリティの共同体、あるいは国境を超えるヒップホップ：現代モンゴルにおけるHipHopが紡ぎだす公共圏に関する考察
3. 学会等名 「モンゴルをとりまくエスノスケープとアイデンティティの重層的動態に関する実証的研究」第1回公開研究会「ノマド化するモンゴル世界 モンゴルをとりまくエスノスケープとアイデンティティの重層的動態 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島村一平
2. 発表標題 民族主義のリトマスペーパーとしてのチンギス・ハーン
3. 学会等名 国際ワークショップ『モンゴル表象をめぐる国際比較』（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 賁漢卓娜
2. 発表標題 日本の多文化教育背景の下における移民二世の教育達成
3. 学会等名 第8回未来知識人フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 賁漢卓娜
2. 発表標題 北京市在住モンゴル族移民2世のエスニシティの生成と変容
3. 学会等名 第90回日本社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 賁漢卓娜
2. 発表標題 (中国語)「主婦化」と「持続可能な雇用モデル」の間 日中の既婚女性を事例として
3. 学会等名 世界海外華人研究学会長崎大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 賈漢卓娜
2. 発表標題 北京のモンゴル族第2世代における民族意識の動態 複数のローカリティのあいだで
3. 学会等名 「モンゴルをとりまくエスノスケープとアイデンティティの重層的動態に関する実証的研究」第1回公開研究会「ノマド化するモンゴル世界 モンゴルをとりまくエスノスケープとアイデンティティの重層的動態 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒井幸康
2. 発表標題 オイラート系モンゴル人の「東帰」をめぐる記憶の場 新疆ウイグル自治区バヤンゴル・モンゴル自治州の問題から
3. 学会等名 「モンゴルをとりまくエスノスケープとアイデンティティの重層的動態に関する実証的研究」第1回公開研究会「ノマド化するモンゴル世界 モンゴルをとりまくエスノスケープとアイデンティティの重層的動態 」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 櫻井義秀、川田進、佐藤千歳、藤野陽平、滝澤克彦、矢野秀武、外川昌彦、高橋沙奈美、加藤久子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 350
3. 書名 アジアの公共宗教 ポスト社会主義国家の政教関係	

1. 著者名 芝山 豊、滝澤克彦、都馬バイカル、荒井幸康、池澤夏樹、ガラムツェレンギーン・バヤルジャルガル、ベスト・ヴァンルーギーン・ドゥゲルマー、金岡秀郎、小高毅、山浦玄嗣	4. 発行年 2021年
2. 出版社 教文館	5. 総ページ数 330
3. 書名 聖書とモンゴル 翻訳文化論の新たな地平へ	

1. 著者名 アブドゥルラッハマン・ギェルベヤズ、葉柳和則、森元斎、滝澤克彦、寺田晋、森啓輔、佐藤静、伍嘉誠	4. 発行年 2021年
2. 出版社 松本工房	5. 総ページ数 191
3. 書名 多文化社会学解体新書 21世紀の人文・社会科学入門	

1. 著者名 島村一平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 440
3. 書名 ヒップホップ・モンゴリア 韻がつむぐ人類学	

1. 著者名 久保桂子、佐藤宏子、宮坂靖子、山根真理、安達正嗣、李璟媛、井田瑞江、大石美佳、杉井潤子、中谷奈津子、マルセロ・デ・アウカンタラ、山下美紀、会田薫子、青木加奈子、安藤藍、安藤喜代美、安藤究、石井クンツ昌子、磯部香、井上清美、上野顕子、魚住明代、臼井和恵、大山治彦、岡部千鶴、小川真理子、奥田都子、小沢千穂子、賽漢卓娜、他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 220
3. 書名 現代家族を読み解く12章	

1. 著者名 秋山元秀、小野有五、熊谷圭知、中村泰三、中山修一、島村一平、他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 1248
3. 書名 世界地名大事典 1(アジア・オセアニア・極 I)	

1. 著者名 佐竹眞明、金愛慶、賽漢卓娜、李善姬、李原翔、メアリー・アンジェリン・ダアノイ、津田友理香、近藤敦、馬兪貞	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 国際結婚と多文化共生	

1. 著者名 山田昌弘、平井晶子、床谷文雄、中村真理子、賽漢卓娜、伊達平和、大島梨沙、宇田川妙子、渡邊暁子、小池誠、川口洋、中島満大、服部誠、蓑輪明子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 367
3. 書名 家族研究の最前線 2	

1. 著者名 井口泰、池上重弘、榎井縁、大曲由起子、児玉晃一、駒井洋、近藤敦、鈴木江理子、渡戸一郎、賽漢卓娜、柏崎千佳子、石川クラウディア、是川夕、明石純一、高橋済、全泓奎、小川玲子、鹿毛理恵、上林千恵子、松宮朝、高畑幸、倉田良樹、松下奈美子、佐藤由利子、他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 移民政策のフロンティア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	島村 一平 (SHIMAMURA Ippei) (20390718)	国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授 (64401)	
研究分担者	賽漢卓娜 (SAIHANJUNA) (20601313)	長崎大学・多文化社会学部・准教授 (17301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	荒井 幸康 (ARAI Yukiyasu) (80419209)	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・共同研究員 (10101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 第2回公開研究会「モンゴル・ヒップホップをめぐるエスノスケープの現在」（2018年11月18日・19日、滋賀県立大学）	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 第1回公開研究会「ノマド化するモンゴル世界 モンゴルをとりまくエスノスケープとアイデンティティの重層的動態」（2018年2月2日、長崎大学）	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関